

## 資料配付の場所

1. 国土交通記者会
2. 国土交通省建設専門紙記者会
3. 国土交通省交通運輸記者会
4. 筑波研究学園都市記者会
5. 函館渡島（教育委員会に依頼）

平成 26 年 10 月 6 日同時配付

平成 26 年 10 月 6 日  
国土交通省  
国土技術政策総合研究所  
(国総研)

**北海道南西沖地震 小中学生らが「失われた町並み」をアプリで体験**

国総研は、災害等で失われた過去の居住環境や復興過程のデータを永く記録保存し、現地で CG 再現表示する技術を研究しており、誰もが使えるアプリとして提供しています。

今回、10 月 8 日に北海道奥尻町において開催される「奥尻島の未来につなぐ記憶の町並みの再現プロジェクト(代表北海道大学 岡田成幸 教授)」にて、本技術のデモンストレーションを行いますのでご案内します。デモンストレーションは、北海道南西沖地震(1993)の被災前の町並みを携帯端末で再現し、震災未経験の地元小中学生らが過去・現在・未来を体験しながら、郷土・歴史・展望について考える機会を提供します。

本技術は、「三次元住宅情報の永久保存技術に関する基礎的研究(2010-12)」および「地域居住空間の三次元アーカイブスの利活用(2013-14)」の研究成果の応用例で一種の AR(複合現実)技術です。使用データは、災害から 20 周年を期に 2012-13 に収集したもので、被災前の古写真から立体復原しています。

## 1. デモンストレーション日時等

日時：平成 26 年 10 月 8 日(水)16:00~17:00

場所：北海道奥尻町青苗地区周辺(徳洋記念緑地公園)

対象：地元の小中学生(5 名程度)、一般町民

内容：津波の記憶が無く、恐ろしさを知らない児童若者等を主な対象として、アプリを操作し被災前の集落を復原表示し体験します。

(1)全戸高台移転した岬地区(五区)の跡地(記念公園)で地上に復原表示します。

(2)約6mまで嵩上げを行った臨港地区の浜風公園付近で、地下に埋まっている昔の町並を再現します。



現地の古写真の例



変換された CG(AR)の例

## 2. アプリ公開場所

国総研 HP <http://sim.nilim.go.jp/Okushiri> 奥尻島の小中学生向け「むかしめがね」アプリ

報道機関の皆様へ 取材参加ご希望の方は、奥尻町教育委員会までご連絡下さい。

## 【問い合わせ先】

「デモンストレーション」に関するお問い合わせ

〒305-0802 茨城県つくば市立原 1 番地 TEL:0298-64-4146(直通) 代表 029-864-2211(内線 4813)

国土技術政策総合研究所(国総研) 住宅研究部 住宅計画研究室 研究官 小林英之

「奥尻島の未来につなぐ記憶の町並みの再現プロジェクト」及び「取材参加」に関するお問い合わせ

〒043-1401 北海道奥尻郡奥尻町字奥尻 314 番地地先

奥尻町教育委員会 学芸員 稲垣森太 TEL:01397-2-3890